

# 北大生物の会・東京

## 第40回談話会のご案内

下記の日程で「北大生物の会・東京」談話会を開催致します。  
会員の皆様、会員以外のご参加いただけます。  
皆様お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

本会は、北大で生物学系の分野を学んだ卒業生たち（主として農学部、理学部、水産学部・卒）が、広範囲な分野のテーマについて、互いに啓蒙しつつ交友を深めるために、同士を募り、1995年に発起されました。毎年春と秋に談話会を開催しています。

今回は田中 紀子 先生をお招きしてお話を伺います。先生は平成21年より千葉科学大学の教授としてお勤めになっており、今回は「ペットの加齢と診断 ～動物病院における会計履歴から見えてくること～」というタイトルでお話を頂きます。日本においてもペットを飼っている方が増えていると思いますが、病気のこと、特に腫瘍などについて耳にする方は少ないのではないのでしょうか。ペットの病気治療の現状について興味深いお話が伺えるものと楽しみにしております。

日 時	2015年10月24日（土曜日）14時～17時	
場 所	東京医科歯科大学・食堂棟1階レストラン「あるめいだ」 Tel: 03-3811-9607	
	*地図は2ページをご覧ください	
	〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45	
	【アクセス】JR 御茶ノ水駅、東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅、 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅	
談話会講師	田中 紀子 先生（千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科・学科長、教授）	
演題	「ペットの加齢と診断 ～動物病院における会計履歴から見えてくること～」	
	*講演要旨および演者略歴は3ページ以降をご覧ください	
会費	無料	
ご連絡先	庶務幹事：祖父尼俊雄（院理・修（動物）S38 修了）	
	E-mail: <a href="mailto:toshi_sofu@jcn-knt.jp">toshi_sofu@jcn-knt.jp</a>	

\*談話会講演の終了後15時45分より17時まで講師の先生と直接お話し出来る場として懇親会を行います（会費：2,000円、会場は同じ「あるめいだ」です）。懇親会への参加をご希望の方は、メールにて事前にご連絡くださいますようお願い致します。  
ご不明な点がございましたらご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしています。

<次ページにつづく>

これまで過去3年間（6回）の談話会では、下記のような内容で講演をいただきました。

第34回談話会 「経済成長と海洋環境：世界一幸福な国フィジーを例にして」 講師：村井 武四氏（2012.10.14）

第35回談話会 「携帯電話のマイクロ波は有害か無害か？」 講師：田中 良晴氏（2013.6.16）

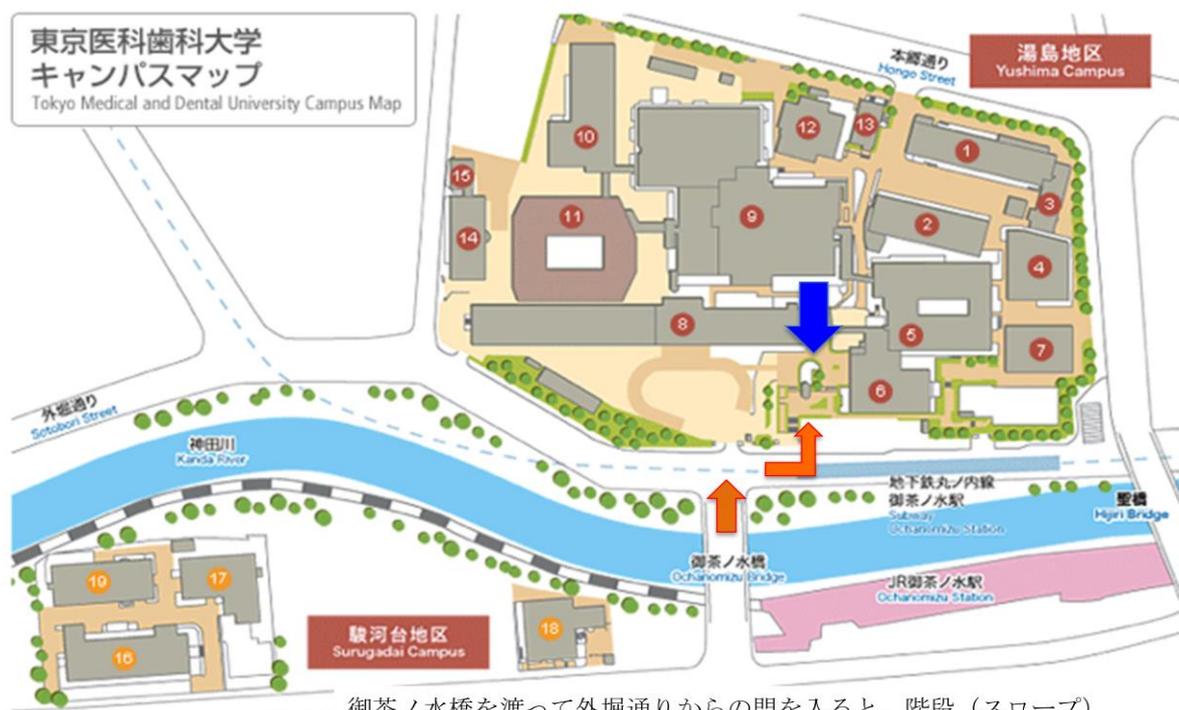
第36回談話会 「人・動物・自然（地球環境）を大切にするヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンドのサイエンス」 講師：加藤 元氏（2013.10.13）

第37回談話会 「蓑亀の秘密」 講師：宮地 和幸氏（2014.6.15）

第38回談話会 「動物園と野生生物の保全」 講師：田畑 直樹氏（2014.11.1）

第39回談話会 「水族館の哺乳類」 講師：荒井 一利氏（2015.6.20）

次回以降の談話会につきましてもご案内させていただきます。



御茶ノ水橋を渡って外堀通りからの門を入ると、階段（スロープ）を上ったところに断面が楕円形の建物（食堂棟）があります（青の矢印）。その入口から地下に降りてください。

レストラン「あるめいだ」地図

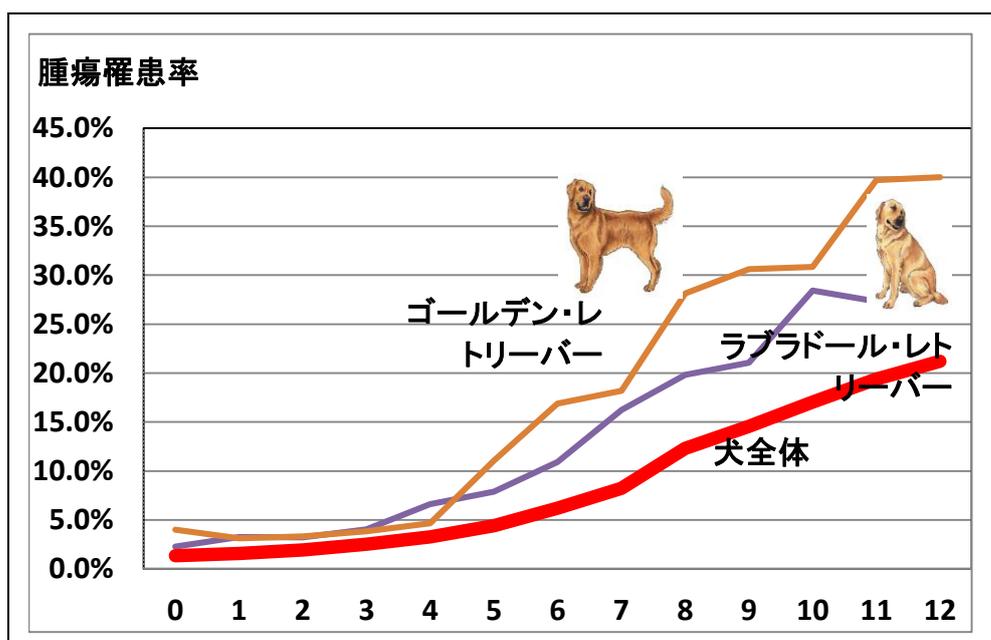
<講演要旨および演者略歴は3ページ以降をご覧ください>

ペットの加齢と診療 ～動物病院における会計履歴から見えてくること～

田中 紀子

千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科・学科長、教授

日本において団塊世代が後期高齢者となる時期がせまり、介護の担い手、年金の原資等に関する話題が毎日のようにメディアに登場する昨今であります。一方、家庭で飼育されている伴侶動物（ペット）数はすでに 14 歳以下の子供の数を上回っておりますが、これら動物も高齢化に伴い生活習慣病や癌等の加齢性疾患が多くなってきており、例えば 8 歳以上の犬では腫瘍の発生を覚悟せねばなりませんし、腫瘍の発生しやすい犬の種類が存在します（図）。



診療技術の進歩や、感染症、特に寄生虫感染症（犬糸状虫症）に対する薬が開発できたことにより、犬の寿命が非常に伸びました。さらに日本には「高齢動物の見取り」についても安楽死を避け、高度な診療を要望する傾向があります。しかしながら動物用医薬品の開発はこの社会情勢に追いついておらず、動物病院（犬猫等のペット）で用いられている薬の多く（9割）は人用医薬品（ヒトの病気治療に認可された医薬品）を獣医師の責任で転用しているのです。昨今、本邦でも初の動物用腫瘍用薬が製品となりました。治療にあたって、犬や猫の癌の遺伝子検査も実施されるようになってきました。

千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科では二次診療施設（一般病院からの紹介による診療を担う病院）において電子化記録（電子カルテや電子会計）の採用状況を調査し、少なくとも会計については電子化されていることを確認しました。さらに、これら電子化された会計履歴を用いて医薬品の使用履歴（薬歴とも言います）をデータベース化し、解析できる体制ができました。今回はその中から腫瘍等の加齢性疾患に焦点をあて、紹介いたします。

---

#### 略歴

昭和 44 年北海道大学理類入学

昭和 50 年北海道大学獣医学部獣医学科卒業

昭和 52 年北海道大学獣医学研究科修了

昭和 52 年第一製薬株式会社・中央研究所入社

昭和 56 年北海道大学獣医学博士

抗菌薬、抗癌薬 研究開発

昭和 61 年 Harvard University, Children's Hospital 技術交換プログラム

抗癌薬、画像診断薬、抗血栓薬研究開発・承認申請

平成 19 年第一三共株式会社・研究開発事業部

平成 21 年千葉科学大学薬学部動物生命薬科学科・教授

平成 23 年同危機管理学部動物危機管理学科・教授

平成 25 年同上学科長、現在に至る

以上